

# 局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月
		○

**局名** 保健福祉局

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根づき_誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	スポーツの振興

担当局/ 総務担当課名	保健福祉局	総務課
連絡先	582-2497	

■21年度計画

Ⅲ-2-(3)-①

**施 策 名** 誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	誰もが気軽にスポーツに親しめる環境を整備するため、障害者スポーツ等の振興に取組みます。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	スポーツの振興

施策の成果	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	現状値		計画	平成21年度	目標値	
	北九州市障害者スポーツ大会参加者数	年度	平成21年度		500 人	年度	平成23年度
施策の成果	当大会の参加者の増加は、より身近にスポーツに取組む障害者の増加を表すことから、当施策の指標としました。	現状値	542人	実績	542 人	目標値	556人
				達成度	108.4 %		
		年度		計画		年度	
		現状値		実績		目標値	
				達成度	%		
		年度		計画		年度	
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月【21年度:執行額】			事業費	53,873 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)	
				うち一般財源	47,158 千円	3,683 千円	

■局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	A	北九州市障害者スポーツ大会の参加者数は、計画どおり達成し、順調に推移しているといえます。例年の参加者に加え、障害者スポーツ教室に参加した方などが新たに大会へ参加しており、非常に良好な流れを形成しています。
		今後の局施策の方向性

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

■ 評価担当部署の意見

適切な評価  下記のとおり

上記の指標に加え、今後「スポーツに親しめる環境」の状況を表す指標の検討が必要かと考えます。

施策名 **誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり**

構成事業名	事業費			事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性		
	C時点【21年度:執行額】					—	—	21年度
	—	—	21年度					
障害者スポーツ振興事業			53,873 千円	3,683 千円	裁量的経費	—	—	ア
① 事業費のうち一般財源			47,158 千円			—	—	
			千円	千円		—	—	
② 事業費のうち一般財源			千円			—	—	
			千円	千円		—	—	
③ 事業費のうち一般財源			千円			—	—	
			千円	千円		—	—	
④ 事業費のうち一般財源			千円			—	—	
			千円	千円		—	—	
⑤ 事業費のうち一般財源			千円			—	—	
			千円	千円	—	—		
⑥ 事業費のうち一般財源			千円		—	—		
			千円	千円	—	—		
⑦ 事業費のうち一般財源			千円		—	—		
			千円	千円	—	—		
⑧ 事業費のうち一般財源			千円		—	—		
			千円	千円	—	—		
⑨ 事業費のうち一般財源			千円		—	—		
			千円	千円	—	—		
⑩ 事業費のうち一般財源			千円		—	—		
			千円	千円	—	—		

局施策全体のコスト	—	—	21年度	
			事業費	人件費(目安)
			53,873 千円	3,683 千円
施策全体の事業費のうち一般財源			47,158 千円	

局施策の 21年度評価	【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある
<b>A</b>	

【事業の今後の方向性】 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続
		○

A時点:-	B時点:-	C時点:22.7月
		○

担当局/課	保健福祉局	障害福祉課
連絡先	582-2424	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根づき、誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	スポーツの振興
	主要施策	誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり

関連計画	北九州市障害者支援計画実施計画
事業期間	昭和39年度～
経費区分	裁量の経費

Ⅲ-2-(3)-①

事業名	障害者スポーツ振興事業
-----	-------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	障害者の社会参加推進を目的として、障害者のスポーツ大会やスポーツ教室等を開催するとともに、各種スポーツクラブによる大会の開催や選手の派遣費用に対し助成するなど、自主的なスポーツ活動に対し支援を行います。		
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	社会参加の促進	成果
				① 障害者スポーツ教室等参加者数 ② 北九州市障害者スポーツ大会参加者数 ③

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由	
		当初計画	障害者スポーツ教室の開催 参加者数:2,300人 北九州市障害者スポーツ大会の開催 参加者数:500人 スポーツクラブへの助成	障害者スポーツ教室の開催 参加者数:2,300人 北九州市障害者スポーツ大会の開催 参加者数:500人 スポーツクラブへの助成	障害者スポーツ教室の開催 参加者数:2,300人 北九州市障害者スポーツ大会の開催 参加者数:500人 スポーツクラブへの助成	障害者スポーツ教室の開催 参加者数:2,300人 北九州市障害者スポーツ大会の開催 参加者数:500人 スポーツクラブへの助成		障害者スポーツ教室の開催 参加者数:2,300人 北九州市障害者スポーツ大会の開催 参加者数:500人 スポーツクラブへの助成
現状		障害者スポーツ教室の開催 参加者数:2,300人 北九州市障害者スポーツ大会の開催 参加者数:500人 スポーツクラブへの助成	障害者スポーツ教室の開催 参加者数:2,300人 北九州市障害者スポーツ大会の開催 参加者数:500人 スポーツクラブへの助成	障害者スポーツ教室の開催 参加者数:2,300人 北九州市障害者スポーツ大会の開催 参加者数:500人 スポーツクラブへの助成	障害者スポーツ教室の開催 参加者数:2,300人 北九州市障害者スポーツ大会の開催 参加者数:500人 スポーツクラブへの助成	障害者スポーツ教室の開催 参加者数:2,300人 北九州市障害者スポーツ大会の開催 参加者数:500人 スポーツクラブへの助成		
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標
	障害者スポーツ教室等参加者数				計画	2,300 人	年度	平成25年度
	教室参加者の特性を十分に考慮し、安心して楽しく参加できる教室になるように努めています。				実績	2,589 人	内容	2,300人
					達成度	112.6 %		
北九州市障害者スポーツ大会参加者数				計画	500 人	年度	平成25年度	
大会参加者が、安全かつ安心して参加できる大会となるように努めています。				実績	531 人	内容	500人	
				達成度	106.2 %			
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月【21年度:執行額】				事業費	53,873 千円	事業にかかった 人件費の目安(21年度)	
					うち一般財源	47,158 千円		3,683 千円
単年度計画								

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	スポーツ教室開催においては、経験豊富な指導員が参加者の特性を考慮しながらプログラムの工夫などを行うことで、参加者が安心して教室に参加することが出来、その結果、継続的に教室に参加する方が増えています。スポーツ大会参加者についても、例年参加している方に加え、スポーツ教室に参加した方などが、新たに大会へ参加しており、参加者数は増加しています。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	障害者のスポーツ活動を活性化させたことは、障害者の社会参加に対して十分に効果がありました。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	常勤の職員だけで、大会や教室を運営するのは不可能であり、ボランティアの協力を受けながら、経済的かつ効率的な運営に努めています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	スポーツに親しむ人を増大させるためには、継続して当事業を実施していく必要があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		4	受講料や参加料による独立した運営は不可能なため、民間の実施主体は考えられません。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア	当事業は施策に対する有効性は高く、「社会参加の促進」を図っていく上で重要な事業です。今後もさらなる振興に向けて事業を継続し、より参加しやすい大会や教室になるよう工夫していく必要があります。